

まほろば



2015.8
第168号

医療安全・感染対策研修会

持参薬の確認と、その活用について

梅雨も明け、蒸し暑い日が続く中、『持参薬の確認と、その活用について』というテーマでお話をさせていただきました。

現在、75歳以上の患者さまが家に溜め込まれている薬は、500億円以上といわれています。なかでも、処方された薬を決められた通りに服用できず無駄にしてしまうことや、たくさんの薬を服用することで健康に悪影響が出たりすることが問題とされています。

当院では、入院された患者さまの薬を医師・看

(医療安全)

護師・薬剤師で確認し、使用できる薬は入院中も服用していただいています。今回の研修では、患者さまが持ってこられた薬を使用する場合には、十分な管理と注意が必要であることを、例を挙げお伝えさせていただきました。

この研修を通じて、持参薬管理の重要性についての理解が深まったと思いますので、今後も、入院中・退院後と患者さまが安心して薬を服用できるよう尽力させていただきたいと思います。

調剤主任薬剤師：坂崎 聰美

カテーテル関連血流感染について

(感染対策)

入院中の患者さんが突然発熱した場合、血管内にカテーテルが留置されていればカテーテル関連血流感染を考える必要があります。カテーテル刺入部に炎症所見があれば可能性が高いですが、所見がない場合も否定できません。いずれも血液培養を2セットで提出することが大事です。1セットだけ陽性の場合は原因菌でないこともあります。

カテーテルを抜くということはかなりの決心が必要ですが、特に血液培養で黄色ブドウ球菌やカンジダが検出され原因菌と考えられる場合は抜去が必要です。

グラム陽性球菌が約半数以上で検出されます。

ポートなど長期に留置されている場合は、抗菌薬投与前に血液培養をポートと末梢から採取し同時に培養を開始してポートからの培養が2時間以上はやく陽性になれば原因菌と考える方法があります。

対策の基本は手指衛生です。アルコール手指消毒剤を頻用しましょう。

小児科部長：杉本 和彦

医療安全・感染対策研修会

日時：平成27年7月28日(火)・29日(水)・31日(金)
15:00～16:00

場所：大会議室

◆15:00～ 医療安全
『持参薬の確認と
その活用について』
講師 調剤主任 坂崎 聰美

◆15:30～ 感染対策
『カテーテル関連
血流感染症について』
講師 杉本和彦 小児科部長(ICD)

▶ 職員は、医療法により、医療安全と感染対策の研修を
それぞれ年2回以上受けることが義務付けられています。
3日間、同じ内容となります。

※今回の研修より研修参加登録に電子カルテの
バーコード使用しますので、お持ちください。

主催 医療安全管理室&感染対策チーム



豪華絢爛・真夏の火扇 一弘前ねぶたまつり一

今年も8月1日(土)～8月7日(金)の7日間、「弘前ねぶたまつり」が開催されました。運行期間中は概ね好天で、熱い暑いまつりとなりました。

今年の参加ねぶた団体は80、8年連続で80台以上の参加となりました。駅前が運行コースに当たる5日には、49台のねぶたが勇壮華麗な姿を競い、34万人の見物客がそれに魅せられました。

今年は、弘前城本丸東面の石垣修理に伴い、天守を約70m本丸の内側へと曳屋する工事が目前に迫っていることもあります。これを題材としたねぶたも多く登場。黄色いヘルメット姿で工事に励む、

弘前のマスコットキャラクター「たか丸くん」を見る事ができました。

また、扇ねぶた表の勇壮な鏡絵も見応えがありますが、裏面の幽玄の美ともいべき見送り絵には、何とも言えぬ風情があり、毎年眼を奪われます。伝統を守ったねぶたの隊列も歴史の重みを感じます。

炎で災いや邪気を祓い清めようという願いを込め、ねぶたを燃やす「なぬかびおり」も終わると、津軽の燃え上がるような絢爛たる夏は、秋へと静かに移ろい始めます。

地域医療連携係：工藤 真淑



採血管のおはなし

誰でも一度は病院で採血をしたことがあるかと思います。そのとき、「何でこんなに何本もとるんだろう?」「こんなに血を抜かれたら貧血で倒れてしまうんじゃ…」と思ったことはありませんか?

大小さまざま、カラフルな色のキャップを付けた採血管は、検査の内容によって一つ一つ役割が異なります。採血管の中には血液が固まらないようにする「抗凝固剤」というものが入っています。検査の内容に応じて抗凝固剤の種類が異なるため、いろいろな検査でより詳しく調べる人ほど何本も採血管が必要になります。

また、一本の採血管の容量は多いものでも10ml程度です。私たちの体を流れている血液の量は体重の約1/13、60kgの人で約4.6l(4600ml)と言われていますので、仮に10本(100ml)採血しても貧血になるほどではありません。

採血はあまり気分の良いことではありませんが、症状の程度を判断したり、疾患を診断するのに非常に重要です。

皆さんのご協力をよろしくお願いします!

臨床検査技師：阿保 美郷



高校生一日看護体験



平成 27 年
7月29日(水)
青森県看護協会主催の高校
生一日看護体
験が行われま
した。

今年は 19 名

の高校生が参加され、うち 2 名は男子学生でした。

白衣に着替え、身だしなみを整え緊張した面持
ちでリエントーションを受け、担当スタッフと病棟へと向かう
後ろ姿は、期待と緊張でいっぱいのようでした。

足浴体験をさせていただいた患者様から「看護
師さんって大変だけどいい仕事だよ。頑張ってね。」
と声をかけられほっとした笑顔が見られていま
した。体験後、患者様から「ありがとう。」と言葉を
かけていただき感動しました。貴重な体験をし改
めて看護師を目指そうと思いました。等の感想を
述べていました。短い時間ではありましたが、少
しでも私たちの伝えたい『看護のこころ』が伝わっ
たと思います。

この体験が看護を目指す気持ちの後押しとなり、
当院で一緒に働ければ嬉しい限りです。

母子医療センター副看護師長：佐田 ゆかり

放射線診療業務従事者講習会を開催して...

7月10日、放射線診療における従事者のため
の講習会を開催しました。

初めて行う講習会でしたので、参加者が数人程
度なのではないかと心配していましたが、予想以
上のスタッフの方々に参加して頂きました。

講習会は当院の放射線診療従事者個人線量モニ
タに採用させて頂いている千代田テクノル社の工
藤亮裕先生にお願いしました。

放射線検査をされる患者様の不安へどう御応え
したら良いのか、放射線検査の介助にあたる際の
心構えなど御教授頂きました。

講習会後の質問の際には小児科医の佐藤工先生

から『小児患者様への医療被ばくについて』質問
があり、親御さんの不安
に対して、世界・日本国
内での指標や当院での検
査における被ばく線量値
等、丁寧に説明していく
ことが重要だと教えて頂
きました。

今後もこのような機会
を設け理解を深めていけ
ればと考えています。

診療放射線技師：境 茜



研修医便り

こんにちは。研修医 1 年目の松崎敦子と申
します。私は兵庫県生まれですが、これまで
引っ越しが多く故郷と呼べる場所がありませ
んでした。それが医学部からこの弘前に来て
今年で 5 年、だんだん私にとってホームにな
りつつあります。当院とのご縁を幸せに思
います。さて、研修開始から 4 カ月がたち、医
療は本当にチームワークだなど日々感じてい
ます。多職種のスタッフが、1 人 1 人「プロ
の仕事」をし、相互に「協力」しあうことで
初めて患者さんのための良質な医療が達成で
きるんだなあと。しかし自分はまだプロの仕
事に至るには程遠く、出来なければいけない
ことと現在の自分の能力とのギャップの大き

さに、まるで太平洋の真ん中で溺れているみ
たいな状態です。1 日も早く戦力になるよう
に、プロの仕事を目指して一歩一歩努力して
参りますので、私が院内で溺れているのを見
かけたら、どうか時々助け舟を出してください
ね。よろしくお願いいたします！

初期臨床研修医：松崎 敦子



外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表 (2015年8月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金	
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	
呼吸器科		石岡佳子	山本勝丸	中川英之	山本勝丸	中川英之	
		下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
		-	-	-	石岡佳子	-	-
消化器・血液内科		鎌田耕輔	鎌田耕輔	鎌田耕輔	山形亮	鎌田耕輔	
		松木明彦	山形亮	山形亮	松木明彦	山形亮	佐藤年信
		佐藤年信	-	佐藤年信	-	-	佐藤年信
		石黒陽	石黒陽	-	石黒陽	石黒陽	石黒陽
小児科		杉本和彦	佐藤工	佐藤啓	佐藤工	杉本和彦	
	三上珠希	岡本剛	三上珠希	岡本剛	佐藤啓	佐藤啓	
外科		田澤俊幸	三上勝也	田澤俊幸	中井款	三上勝也	
乳腺外科		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	櫻庭弘康	小田桐弘毅	
整形外科	午前	三浦和知	秋元博之	秋元博之	休診	秋元博之	
		神裕道	三浦和知	三浦和知	(手術)	三浦和知	
	午後	大石和生	-	神裕道		神裕道	
午後	-	-	-		休診		
脳神経外科		-	-	木村正英	-	-	
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	
	午後	●予約	●手術/検査	●予約	●手術/検査	●予約	●予約
泌尿器科	午前	神村典孝	神村典孝	弘前大学医師	神村典孝	神村典孝	
	午後	検査	検査	手術	検査	手術	
産婦人科		谷口綾亮	丹藤伴江	丹藤伴江	●妊婦健診	谷口綾亮	
		阿部和弘	阿部和弘	田中加奈子	(一般外来休診)	松村由紀子	
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	
耳鼻咽喉科		-	南場淳司	-	白崎隆	武田育子	
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	
	治療	-	-	川口英夫 (午後)	-	川口英夫 (午後)	
女性専用外来		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3火曜日午後診療)					
セカンドオピニオン		-	-	-	今充	-	

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

病床に ねぷた囃子が こだまする

(ムツ)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 小田桐 弘毅

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.aoi-mori.net/~hirosaki/>